

議 事 録

日 時	2024年 7月8日 15 : 00～16 : 00
作成者	鈴木
場 所	基礎医学実習室

会議名	令和6年度 第1回 学校関係者評価委員会	
出席者 (敬称略)	外部委員	・ 林 弘康（東京都理学療法士協会 相談役） ・ 三沢 幸史（東京都作業療法士協会 副会長） ・ 田中 匠作（あい介護老人保健施設 作業療法士主任） ・ 関 雅彦（板橋ロイヤルケアセンター リハ科係長） ・ 横山 浩康（熊谷総合病院 リハ科 課長） ・ 下河辺 雅也（山田記念病院 リハ科 技師長） ・ 大塚 俊平（錦クリニック）
	事務局	・ 草野 修輔（学校長） 林 正志（副校長） 石垣 栄司（教務部長） 中嶋 裕之（事務部長） - 鍋城 武志（PT学科昼間部学科長） 吉葉 則和（PT学科夜間部学科長） - 深瀬 勝久（OT学科昼間部学科長） 松生 容一（OT学科夜間部学科長） - 手塚 雅之（学生支援・相談課課長） - 鈴木 達也（事務局 課長代理） 樋口 豊朗（事務局 課長）
	欠 席	
配布資料	・ ・	
議 事		
1. 学校長挨拶		
委員会の冒頭において、草野校長より開会の挨拶があった。		
2. 委員紹介		
外部委員の皆様から、それぞれ自己紹介が行われた。		
3. 令和5年度 募集・中途退学者の状況報告(中嶋事務部長)		
中嶋事務部長より、令和5年度の入学者数、中途退学率、国家試験合格率といった業績指標について報告があった。		
4. 学校関係者評価結果について(鈴木学務課長代理)		
鈴木学務課長代理より、学校関係者評価において外部委員から寄せられた質問に対する回答内容について説明があった。		

【意見交換】

下河辺委員

- ・作業療法学科の国家試験合格率が理学療法学科に比べて低い理由について。

深瀬学科長

- ・学生の基礎学力の低下に加え、国家試験対策に参加しない学生グループが形成され、互いに悪影響を及ぼしていたことが要因と考えられる。

松生学科長

- ・基礎学力の低下に加え、様々な事情により通学が困難であったり、集団での学習が苦手な学生も存在していた。これらの学生の状況把握が難しく、結果として国家試験の合格率に影響を及ぼした可能性がある。

下河辺委員

- ・グループワークが苦手な学生が増えているのか。

深瀬学科長

- ・学生の質は学年やクラスにより異なるが、グループワークが苦手な学生には個別対応が必要であると感じている。

5. 令和6年度の取り組み重点テーマ(石垣教務部長)

石垣教務部長より、令和6年度の取り組み重要テーマについて以下の説明があった。

- ・本年度も中途退学率の抑制を重点課題として、学校全体で取り組んでいく方針。
- ・昨年度の中退理由として、理学療法学科では進路変更が多く見られたが、その背景には学力不振や職業理解の不足があると分析している。
- ・作業療法学科では精神面を含む体調不良による退学者が多く、昨年度も欠席者への声掛けや補講を行ったが、十分な成果が得られなかった。
- ・今年度は「学生相談支援課」の設置、「中退率改善委員会」の立ち上げなど、組織的な体制を整え、中退防止に取り組んでいる。
- ・学生が「学校にきたい」と思えるような環境づくりが必要である。

「中退率低減の取り組みと修学フォローアップ生への対応について」(手塚学生相談支援課長)

手塚課長より、中退率低減の取り組みについて説明があった

- ・理学療法学科昼間部では中退率が高い傾向にあり、学校全体で対策に取り組んでいる
- ・同学科に教員を多く配置し、個別のフォローを強化している。
- ・出席管理システムを導入し、学生の出欠状況をリアルタイムで把握。これにより状況に応じた声掛けや面談が可能

となっており、学生からの相談も増加傾向にある。

・「30 秒アンケート」を実施し、孤独感や目的意識の欠如といった学生の SOS を早期に把握する取り組みを実施。

これらの施策により、昨年度と比べて中退率は改善される可能性が高いという感触が得られている。

【質疑応答】

横山委員

・出席管理の詳細について。

樋口教務課長

・学籍管理システムを用いて学生の出席状況や成績管理を行っており、リアルタイムでの把握が可能となっている。

横山委員

・「30 秒アンケート」と学籍管理システムの連動性について。

樋口教務課長

・30 秒アンケートは Google フォームで実施しており、学籍管理システムとは連動していない。

6. その他

中嶋事務部長より、日本の将来的な人口推移や外国人受け入れに関して、学園内プロジェクトでの検討内容の共有があった。

以上